

# 小平市立小・中学校における 令和6年度特別支援教育取組状況の調査結果

## 1 調査対象

- (1) 小平市立小学校 19校
- (2) 小平市立中学校 8校

## 2 調査の回答期間

令和7年1月16日から1月30日まで

## 目次

1 校内委員会について.....	1
2 学校生活支援シート(個別の支援計画)について.....	4
3 個別指導計画について.....	7
4 教育のユニバーサル化の推進について.....	9
5 読み書きに困難がある児童・生徒への支援について.....	11
6 ICT 機器を活用した学習支援について.....	13
7 校内研修会について.....	14
8 保護者・地域への理解啓発.....	14
9 巡回相談について.....	15
10 こげら就学支援シートの活用について(小学校のみ回答).....	17
11 副籍交流の充実.....	18
12 放課後等デイサービスとの連携.....	19
13 児童・生徒を対象とした通級指導学級を活用した障害理解教育について.....	20
14 特別支援学級の児童・生徒との交流及び共同学習の状況.....	21
15 令和6年度の特別支援教育全般に関する成果と課題.....	23

※特に記載がない場合は、( ) 内数値は令和5年度の値とする。

## 1 校内委員会

回答数には、令和7年1月～3月実施予定回数を含む。

(1) 校内委員会の開催頻度について

①年間開催回数／平均所要時間

【小学校】

校数

		平均所要時間／回				総計
		1-15分	16-30分	31-45分	46-60分	
年間開催回数	1-5回	(1)				(1)
	6-10回		2	1 (1)	1	5 (1)
	11-15回	1	3 (4)	7 (4)	2 (4)	12 (12)
	16-20回		(2)			(2)
	21-25回		(1)	1		1 (1)
	26-30回	(1)		(1)		(2)
	31-35回			1		1
	36-40回					
総計 (校数)		1 (2)	5 (7)	10 (6)	3 (4)	

年間開催回数平均：13.3回 (14.8回)

平均所要時間／回平均：34.8分 (32.5分)

【中学校】

校数

		平均所要時間／回				総計 (校数)
		1-15分	16-30分	31-45分	46-60分	
年間開催回数	1-5回					
	6-10回					
	11-15回					
	16-20回				1	1
	21-25回				1 (3)	1 (3)
	26-30回				(3)	(3)
	31-35回			1	1 (1)	2 (1)
	36-40回				2 (1)	2 (1)
	41回以上				2	2
総計 (校数)				1	7 (8)	

年間開催回数平均：33.6回 (28回)

平均所要時間／回平均：51.1分 (53分)

② 1回の校内委員会で取扱う平均ケース数

校数

ケース数	小学校	中学校
1- 5人	18 (19)	0 (0)
6-10人	0 (0)	2 (1)
11-15人	1 (0)	1 (2)
16-20人	0 (0)	2 (2)
21-25人	0 (0)	2 (0)
26-30人	0 (0)	0 (2)
31-35人	0 (0)	1 (1)
平均値	3.5人 (3人)	18人 (19.8人)

(2) 校内委員会でどのような議題を取り上げているか。(複数回答可)

校数

	小学校	中学校
児童・生徒についての情報交換	19 (19)	8 (8)
支援方法についての検討	19 (18)	8 (8)
巡回相談の活用	15 (13)	8 (5)
ケース会議の調整	10 (8)	2 (2)
保護者対応について	18 (17)	8 (7)
学校生活支援シート、個別指導計画の作成について	6 (9)	6 (4)
研修の企画	2 (1)	0 (0)
その他	3 (4)	0 (0)

<その他>

- ・ 特別支援教室の入室・退室について
- ・ 特別支援教室入室者の各学期の評価について

(3) 校内委員会の主な参加者（複数回答可）

校数

	小学校	中学校
校長	19 (19)	8 (8)
副校長	19 (19)	8 (8)
特支コーディネーター	19 (19)	8 (8)
生活指導主任	16 (16)	5 (4)
学年主任	6 (7)	0 (0)
養護教諭	19 (18)	8 (7)
担任	17 (15)	1 (3)
固定学級担任	3 (3)	4 (3)
特別支援教室・通級担任	19 (17)	8 (8)
スクールカウンセラー	10 (7)	7 (7)
巡回相談員、巡回相談心理士	3 (2)	0 (0)
スクールソーシャルワーカー	1 (3)	7 (7)
特別支援教室専門員	17 (16)	6 (6)
その他	3 (1)	3 (1)

<その他>

- ・教務主任
- ・不登校担当教員、不登校対応巡回教員
- ・福祉施設の職員

(4) 校内委員会を行う上での課題（複数回答可）

校数

	小学校	中学校
スケジュール調整	12 (15)	4 (1)
時間や回数の不足	13 (15)	1 (1)
特になし	3 (0)	4 (6)

## 2 学校生活支援シート（個別の支援計画）について

(1) 特別支援教室、きこえとことばの教室での指導を受けていない児童・生徒の学校生活支援シート作成件数

①作成件数（保護者承諾済）

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
小学校	238	191	174	171	122
中学校	18	8	7	2	13

②作成したが、保護者の承諾が得られていない件数

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
小学校	60	93	89	14	5
中学校	3	6	1	0	25

③作成することが必要と思われるが、作成していない件数

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
小学校	61	30	49	79	81
中学校	8	0	1	16	22

<作成していない理由>

- ・年度途中で作成について検討したが検査結果が出てないため、次年度に作成を予定している。
- ・保護者の理解や了解が得られない。

(2) 特別支援教室・きこえとことばの教室での指導を受けている児童・生徒の学校生活支援シート作成件数

①学校生活支援シート作成件数

		利用人数	作成件数	作成率
小学校		579	579	100%
	特別支援教室	506	506	100%
	きこえとことばの教室	73	73	100%
中学校		132	132	100%

②作成率の推移

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
小学校	100%	100%	100%	100%	100%
中学校	100%	100%	100%	100%	100%

(3) 知的障がい特別支援学級に在籍する児童・生徒の学校生活支援シート作成件数

	在籍人数	作成件数	作成率
小学校	164	164	100%
中学校	113	113	100%

(4) 自閉症・情緒障がい特別支援学級に在籍する児童・生徒の学校生活支援シート作成件数

	在籍人数	作成件数	作成率
小学校	11	11	100%

(5) 活用の状況

①学校生活支援シートの主な活用方法（複数回答可）

校数

	小学校	中学校
新担任、新学年への引継ぎ資料	19 (19)	8 (8)
校内委員会資料	13 (10)	3 (4)
保護者、巡回相談員等との面談資料	16 (13)	8 (6)
関係機関との連携資料	14 (9)	5 (2)
その他	1 (0)	2 (1)

<その他>

- ・就学支援委員会での資料
- ・進学先への引継ぎ資料

②児童・生徒の状況等が変化したことで、年度の途中で計画の修正をしたことがあるか。

校数

	小学校	中学校
ある	9 (10)	3 (3)
ない	10 (9)	5 (5)

(5) 学校生活支援シートの作成・活用における実施上の課題

①学校生活支援シートの作成上の課題（複数回答可）

校数

	小学校	中学校
入力箇所が多い、記載方法が不明瞭等の理由につき、作成が煩雑で時間がかかる。	16 (15)	4 (5)
作成についての保護者アンケートの回収が困難なことがある。	7 (11)	5 (2)
努力義務で作成する児童・生徒の基準が曖昧である。	8 (12)	5 (3)
特になし	1 (0)	0 (2)
その他	1 (1)	0 (1)

<その他>

- ・個別指導計画との関連付けに苦慮している。

②学校生活支援シートの活用上の課題（複数回答可）

校数

	小学校	中学校
メリットがわからないまま作成されることもあり、活用しにくい。	14（13）	4（4）
作成や活用についての理解度が教員によって異なる。	15（17）	8（7）
一度作成された後に更新しにくく、継続した活用につながらない。	3（7）	3（4）
特になし	1（1）	0（0）

（6）作成や活用を効果的に行うために必要なことや意見等

- 作成することが目的になっているように感じる。意識を変えるように管理職から声掛けする必要があると思う。
- 作成するメリットや活用している実感が持てるように、特別支援教育コーディネーターとしても校内で啓発していかなければならないと感じる。
- 児童・生徒の理解に必要な書類であるとは思っているが、もう少し入力が簡単になるなど、一枚のシートで児童の1年次からの学校生活の様子がわかる欄があるとよいと思う。
- 保護者からその活用方法や効果の理解が得られないときがあるので、保護者向けにもメリットの周知が必要である。
- 市内小・中学校がどのように活用しているか実態を知りたい。

### 3 個別指導計画について

(1) 特別支援教室、きこえとことばの教室での指導を受けていない児童・生徒の個別指導計画の作成件数

①作成件数（保護者未承諾のものも含む）

件数

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
小学校	382	214	120	137	125
中学校	24	9	1	1	10

②作成することが必要と思われるが、作成していない件数

件数

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
小学校	0	102	105	37	34
中学校	2	0	9	21	21

<作成していない理由>

- ・保護者の了承が得られない場合、作成するメリットが感じられないため。

(2) 特別支援教室、きこえとことばの教室での指導を受けている児童・生徒の個別指導計画の作成件数

①個別指導計画作成件数

		利用人数	作成件数	作成率
小学校		579	579	100%
	特別支援教室	506	506	100%
	きこえとことばの教室	73	73	100%
中学校		132	132	100%

②作成率の推移

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
小学校	100%	100%	100%	100%	100%
中学校	100%	100%	100%	100%	100%

(3) 知的障がい特別支援学級に在籍する児童・生徒の個別指導計画作成件数

	在籍人数	作成件数	作成率
小学校	164	164	100%
中学校	113	113	100%

(4) 情緒障がい特別支援学級に在籍する児童・生徒の個別指導計画作成件数

	在籍人数	作成件数	作成率
小学校	11	11	100%

## (5) 個別指導計画の主な活用方法（複数回答可）

校数

	小学校	中学校
児童・生徒の状況の把握と共有	19 (19)	8 (8)
指導方法の工夫と改善の検討	15 (15)	8 (7)
校内委員会資料	8 (9)	3 (1)
保護者、巡回相談員等との面談資料	17 (16)	8 (8)
関係機関との連携資料	10 (9)	4 (3)
その他	0 (0)	1 (1)

&lt;その他&gt;

- ・進学先への引継ぎ資料

## (6) 個別指導計画の作成・活用における実施上の課題

## ①作成上の課題（複数回答可）

校数

	小学校	中学校
入力箇所が多く、作成に時間がかかる	15 (13)	4 (4)
学校生活支援シートと内容が重複する	12 (12)	5 (3)
努力義務で作成する児童・生徒の基準が曖昧	6 (11)	3 (4)
特になし	2 (1)	0 (2)

## ②活用上の課題（複数回答可）

校数

	小学校	中学校
学校生活支援シートとの使い分けが困難	13 (9)	4 (6)
作成や活用についての理解度が教員によって異なる	15 (16)	5 (5)
学期ごと等の区切りがなく、更新がしにくい	5 (6)	3 (0)
特になし	1 (3)	0 (1)

## ③作成及び活用を効果的に行うために必要と思われること、その他意見

- ・子ども自身が自分の課題と向き合うことが大切だと思うので、子どもと一緒に活用できるとよいと思う。

## 4 教育のユニバーサル化の推進について

### (1) 学習環境の整備

#### ①場の構造化（複数回答可）

校数

	小学校	中学校
整理整頓の徹底	19 (17)	7 (7)
物の置き場所を絵や写真で掲示	18 (14)	5 (3)
宿題等の提出箱などの設置	18 (15)	3 (4)
ごみの分別の仕方の掲示	14 (11)	0 (2)

#### ②刺激量の調整（複数回答可）

校数

	小学校	中学校
黒板周辺の整理	19 (19)	8 (8)
余分な刺激のカーテンによる目隠し	8 (10)	2 (0)
テニスボール等を使用した消音（机、椅子）	18 (16)	7 (6)
パーティションの活用	6 (8)	1 (1)
その他	1 (0)	0 (0)

<その他>

- ・教室の前面には刺激になるものを掲示しない。

#### ③ルールの明確化（複数回答可）

校数

	小学校	中学校
朝の身支度	18 (16)	4 (3)
掃除の仕方	16 (12)	6 (6)
声の大きさ	18 (15)	3 (3)
話の聞き方	18 (15)	4 (3)
発言の仕方	19 (14)	3 (3)
友達との関わり方	9 (7)	2 (1)
その他	0 (1)	0 (0)

#### ④互いを認め合う工夫（複数回答可）

校数

	小学校	中学校
教員がモデルとなり、一人一人を認める言葉 がけの推奨（「ドンマイ」、「いいね」など）	17 (16)	7 (5)
話し合いや教え合いの場面の設定	19 (18)	6 (7)
全員が発表できる場の設定	18 (14)	6 (7)
その他	0 (0)	1 (0)

<その他>

- ・学級活動の時間で合意形成による話し合い活動を行った。

## ⑤時間の構造化（複数回答可）

校数

	小学校	中学校
授業の流れの中で「今」の活動を示す	17 (15)	5 (4)
タイマーや時計の活用	19 (19)	8 (8)
活動の始まりと終わりの明確化	18 (15)	8 (6)
授業のめあてや流れの掲示	19 (19)	8 (8)

## (2) 指導方法の工夫

## ①焦点化（複数回答可）

校数

	小学校	中学校
授業のねらいや活動をできるだけ精選して焦点化を図り、簡素化させる	18 (17)	8 (6)
授業の本質を見極め、発問や説明などを絞り込む	15 (8)	5 (3)

## ②視覚化・情報伝達の工夫（複数回答可）

校数

	小学校	中学校
重要な点は必ず板書や掲示で示す	18 (13)	6 (6)
重要なポイントを示す場合には、文字の色や枠囲みを統一する	18 (9)	5 (2)
話を聞く時間と書く時間とを分ける（同時に二つの活動を指示しない）	16 (7)	5 (3)
ICT機器の活用（学習者用端末、実物投影機、大型ディスプレイなど）	19 (19)	8 (8)

## ③共有化・参加の促進（複数回答可）

校数

	小学校	中学校
全員が発言できるような学習形態の工夫	18 (15)	6 (5)
学力に合わせた教材の準備	18 (12)	4 (1)
ヘルプカードやヒントカードの活用	13 (10)	1 (0)
多様な意見を生かす言葉掛け	18 (16)	6 (6)

## 5 読み書きに困難がある児童・生徒への支援について

(1) 知的障がいがない児童・生徒で、読み書きに困難があると思われる児童・生徒の人数

	人数
小学校	280 (305)
中学校	83 (97)

(2) 児童・生徒の学習のつまづき状況を把握するための読み書きアセスメントの実施状況

校数

	小学校	中学校
第1学年で全員に実施している	2 (2)	0 (0)
特別支援教室への入室を検討している児童・生徒は全員実施している	9 (8)	6 (7)
特に読み書きに困難があると思われる児童・生徒に実施している	6 (7)	1 (1)
実施していない	5 (5)	1 (1)
その他	1 (3)	0 (0)

<その他>

- ・特別支援教室入室後に、児童の状況把握のために特別支援教室でアセスメントを実施している。

(3) どのように読み書きアセスメントを実施しているか（複数回答可）

校数

	小学校	中学校
都のマニュアルにある学習場面における行動のチェックリストを活用している	11 (11)	7 (7)
読み書き達成テストを実施している	0 (0)	0 (0)
標準読み書きスクリーニング検査を実施している	5 (3)	0 (0)
その他	3 (2)	1 (2)

<その他>

- ・MIM-PM
- ・STRAW-R
- ・WAVES

(4) 読み書きに困難があるため、音声教材等の教科書を利用している児童・生徒の人数

	人数
小学校	33 (22)
中学校	8 (0)

(5) 音声教材の使用上の課題（複数回答可）

校数

	小学校	中学校
どのような教材が利用できるかわからない	6 (9)	1 (2)
授業中の活用が難しく、自宅学習等での使用に限られてくる	14 (11)	2 (0)
音声教材を使用することについて、保護者の理解を得ることが難しい	2 (2)	0 (0)
特になし	3 (3)	3 (2)
その他	2 (4)	2 (0)

<その他>

- 教員の指示を聞きながら、児童自身が必要に応じて利用する力が必要となるため、児童のみでの活用が難しい場合がある。
- 一人で使用できるようになるまでの期間に教員等によるサポートが必要となる。

## 6 ICT 機器を活用した学習支援について

(1) 学習障害等により、特別な支援を必要とする児童・生徒に ICT 機器を活用してどのような支援を行っているか。 校数

	小学校	中学校
デジタル教材を使用している	17 (13)	7 (3)
プリント類を PDF データ等で配付している	5 (3)	1 (0)
紙媒体以外での板書の写しを実施している	16 (12)	6 (5)
特になし	0 (3)	0 (2)
その他	1 (0)	0 (1)

<その他>

- ・ロイロノートを活用し、板書の分量が少なくなるよう調整している。

(2) ICT 機器を活用した学習支援について、どのような課題があるか。 校数

	小学校	中学校
学習者用端末で使いたいアプリケーションがあるが、費用がかかる	10 (11)	3 (3)
保護者の理解を得ることが難しい	2 (3)	1 (1)
特になし	7 (6)	2 (4)
その他	4 (2)	4 (1)

<その他>

- ・個別にアプリケーションのインストール等が必要になるため、教員が全ての手続きに対応することは困難である。
- ・デジター教科書の利用までの手順や市内の活用実績を共有する必要がある。また、保護者に示すための見本を教員が使用できるとよい。

## 7 校内研修会について

研修内容等については別紙のとおり

回答数には、令和7年1月～3月実施予定回数を含む。

### (1) 校内研修会の年間実施回数

校数

	小学校	中学校
1回	10(12)	5(3)
2回	6(5)	0(2)
3回	1(0)	1(1)
4回	1(1)	0(1)
5～10回	1(1)	2(0)

### (2) 実施上の課題（複数回答可）

校数

	小学校	中学校
研修時間の設定	11(8)	6(4)
講師の選定	15(13)	3(2)
研修内容を実際の支援に活かすこと	6(3)	2(1)
特になし	2(4)	1(2)

## 8 保護者・地域への理解啓発

### (1) 保護者、地域に教育現場における合理的配慮への理解啓発として行ったもの（複数回答可）

校数

	小学校	中学校
学校だより	13(12)	7(6)
ホームページ、ブログ	5(10)	5(4)
保護者会・講座	14(10)	3(5)
行事等の活用	2(2)	1(1)
その他	1(2)	0(0)

<その他>

- ・学校公開で保護者参観のもと、理解授業を実施した。

## 9 巡回相談について

### (1) 巡回相談員の活用方法（複数回答可）

校数

	小学校	中学校
児童・生徒の観察	19 (19)	8 (8)
校内委員会への支援	11 (8)	7 (4)
特別支援教育コーディネーターへの支援	14 (15)	6 (4)
担任への支援	16 (19)	6 (7)
校長・副校長への支援	6 (6)	1 (1)
養護教諭・スクールカウンセラーとの連携	14 (12)	4 (2)
関係機関との連携	5 (4)	3 (2)
研修会の講師を依頼	2 (4)	1 (1)
その他	0 (0)	1 (0)

<その他>

- ・巡回指導教員への助言

### (2) 巡回相談員が行った支援の内容（複数回答可、特に成果があったものは◎で回答）

校数

	小学校	中学校
児童・生徒の特性の理解について	19 (内◎: 15)	8 (内◎: 5)
指導方法や教材等について	19 (内◎: 9)	8 (内◎: 1)
教室等の環境の改善について	18 (内◎: 1)	7 (内◎: 0)
学校生活支援シートの作成について	3 (内◎: 0)	0 (内◎: 0)
個別指導計画の作成について	3 (内◎: 0)	1 (内◎: 0)
学級の運営について	14 (内◎: 0)	4 (内◎: 0)
校内の連携体制の構築について	11 (内◎: 0)	5 (内◎: 0)
学級における授業以外の活動（係活動・当番活動・清掃活動等）について	8 (内◎: 0)	4 (内◎: 0)
その他お	1 (内◎: 1)	0 (内◎: 0)

<その他>

- ・支援方法や適切な学びの場に関する助言

## (3) カンファレンス・フィードバック会場への出席者

校数

	小学校	中学校
校長	2 (3)	4 (3)
副校長	3 (4)	2 (3)
特別支援教育コーディネーター	19 (19)	8 (7)
生活指導主任	2 (1)	1 (1)
学年主任	3 (4)	5 (5)
養護教諭	14 (11)	4 (3)
担任	19 (19)	8 (7)
知的障がい特別支援学級担任	3 (2)	2 (2)
特別支援教室担任	10 (5)	5 (2)
スクールカウンセラー	4 (1)	0 (0)
巡回相談員、巡回相談心理士	9 (9)	7 (8)
スクールソーシャルワーカー	1 (1)	2 (1)
特別支援教室専門員	18 (18)	6 (6)
その他	0 (0)	0 (2)

## (4) 巡回相談実施上の課題について（複数回答可）

校数

	小学校	中学校
巡回相談の回数が不足している	8 (4)	0 (0)
次回の相談までの間隔が長期化してしまう	5 (3)	0 (0)
巡回相談員の専門性がニーズに合わない	2 (2)	1 (0)
特になし	5 (7)	4 (6)
その他	8 (8)	3 (2)

&lt;その他&gt;

- ・日程調整、事前資料の作成やフィードバックの参加時間の確保が困難である。

## 10 こげら就学支援シートの活用について（小学校のみ回答）

### （1）提出された枚数

枚数

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
提出枚数	316	294	349	351	313
入学児童数（※）	1,710	1,731	1,718	1,733	1,595
提出率	18.5%	17.0%	20.3%	20.3%	19.6%

※特別支援学級児童を含む当該年度5月1日時点児童・生徒数

### （2）シートの内容に関する保護者との共通理解

#### ①保護者との打合せ方法（複数回答可）

	回答校数
面談	19（19）
電話	8（9）

#### ②やむを得ず説明できていない件数等

学校数	件数	理由
9（6）	90（50）	・保護者が面談を希望しなかったため。

### （3）活用方法（複数回答可）

	回答校数
学校生活支援シートの作成	11（12）
指導・支援の参考	19（19）
学級編制	19（19）
巡回相談時の資料	16（18）

### （4）活用上の課題について（複数回答可）

	回答校数
提出時期が遅い	2（3）
保護者からの理解が不足	9（6）
記載方法に一貫性がない	3（4）
特になし	8（11）
その他	4（4）

<その他>

・保護者の認識の違いにより、支援を必要とする児童の分が提出されないことがある。

## 1.1 副籍交流の充実

(1) 副籍を置く児童・生徒がいる学校数 校数

	小学校	中学校
在籍あり	19 (19)	8 (8)
在籍なし	0 (0)	0 (0)

(2) 副籍を置く児童・生徒数

【小学校】

人数

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
副籍を置く児童数	80	87	86	86	102
交流実施人数	78	69	73	86	102
うち、直接交流実施人数	1	15	19	27	33

【中学校】

人数

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
副籍を置く生徒数	31	32	33	29	36
交流実施人数	30	32	25	29	35
うち、直接交流実施人数	1	8	6	5	4

(3) 学校全体で副籍制度の意義やねらい、内容等の共通理解を行っているか。

(副籍対象者在籍校のみ回答)

校数

	小学校	中学校
学校全体で共通理解している	9 (9)	2 (4)
学校全体で共通理解していない	1 (4)	0 (2)
副籍を置く児童・生徒の在籍学年の担任は共通理解している	9 (10)	6 (2)

(4) 副籍対象者との交流のうち、直接的な交流の実施上の課題 (複数回答可)

校数

	小学校	中学校
副籍対象者が直接交流を希望していない	9 (9)	6 (7)
副籍対象者が望む直接交流の内容が受入れ困難な内容	1 (1)	1 (0)
学校施設・設備が副籍対象者の受入れに対応できない	0 (0)	0 (0)
日程調整等の事前準備が煩雑である	8 (9)	4 (2)

## 1.2 放課後等デイサービスとの連携

(1) 学校で把握している放課後等デイサービスを利用している児童・生徒の人数

	人数
小学校	89 (70)
中学校	15 (18)

(2) 利用状況をどのように把握しているか (複数回答可)

校数

	小学校	中学校
個別指導計画の作成対象者は、作成時に利用の有無を確認している	9 (9)	3 (4)
放課後等デイサービス事業所が学校に迎えにくる場合は把握している	4 (6)	1 (3)
特になし	7 (6)	3 (1)
その他	4 (2)	1 (1)

<その他>

- ・保護者との面談の際に把握した。
- ・前の担任から引継ぎを受けた。

(3) 児童・生徒の情報を放課後等デイサービスと共有するために実施していること

(複数回答可)

校数

	小学校	中学校
学校生活支援シートを放課後等デイサービス事業所と共有する	1 (2)	0 (2)
放課後等デイサービス事業所による利用者の授業観察等	3 (2)	0 (0)
放課後等デイサービスの療育状況の共有	1 (2)	1 (0)
特になし	14 (14)	5 (4)
その他	2 (1)	1 (0)

<その他>

- ・放課後等デイサービス、学童の職員及び担任が参加する支援会議を開催した。
- ・保護者から放課後等デイサービスの個別指導計画の提出があった場合、情報共有を行っている。
- ・送迎時にその日の様子等の情報共有を行っている。

## (2) 放課後等デイサービスと情報共有する際の課題（複数回答可）

校数

	小学校	中学校
支援状況等を記入する所定の様式がない	3 (4)	1 (1)
放課後等デイサービスの職員を交えて面談する機会がない	10 (8)	3 (2)
具体的に何を情報共有するのか不明確である	5 (7)	2 (2)
特になし	7 (7)	4 (3)
その他	2 (1)	0 (0)

&lt;その他&gt;

- ・学校と放課後等デイサービスが情報共有するのに、保護者からの希望があることが望ましい。

**13 児童・生徒を対象とした通級指導学級を活用した障害理解教育について**

## (1) 特別支援教室やきこえとことばの教室を活用して、児童・生徒に障害理解教育を

実施した回数

校数

	小学校	中学校
0回	5 (6)	4 (4)
1～2回	9 (9)	3 (2)
3～5回	2 (1)	0 (2)
6～9回	2 (2)	0 (0)
10回以上	1 (1)	0 (0)

## (2) 実施内容について該当するもの（複数回答可）

校数

	小学校	中学校
通常の学級に在籍する特別な支援を必要としない児童・生徒が、特別支援教室、きこえとことばの教室の指導内容を見学・体験した。	4 (3)	0 (1)
特別支援教室、きこえとことばの教室の担当教員による通常の学級での障害理解教育の出前授業	13 (12)	0 (2)
集会等で特別支援教室、きこえとことばの教室の指導内容を児童・生徒に周知した	3 (0)	3 (1)
その他	2 (1)	0 (1)

&lt;その他&gt;

- ・各担任が学級において指導した。

#### 1.4 知的障がい特別支援学級の児童・生徒との交流及び共同学習の状況

(1) 知的障がい特別支援学級の児童・生徒との交流及び共同学習の実施回数

(小学校：6校、中学校：5校が回答対象)

校数

	小学校	中学校
1～2回	0 (0)	0 (1)
3～5回	0 (0)	0 (0)
6～9回	1 (0)	0 (0)
10回以上	5 (6)	5 (4)

(2) 交流及び共同学習として、知的障がい特別支援学級の児童・生徒がそれぞれ何人参加したか。

実数で回答(例) Aさんが年に1回音楽に参加、Bさんが年に10回音楽に参加した場合は「2」

【小学校】6校、特別支援学級児童164人(160人)

【中学校】5校、特別支援学級生徒113人(92人)

	実施校数	人数
国語	2 (1)	3 (1)
算数	4 (4)	5 (7)
理科	2 (4)	2 (10)
社会	2 (3)	4 (23)
生活	2 (2)	8 (10)
音楽	4 (3)	21 (19)
図工	1 (3)	2 (7)
体育	6 (5)	85 (54)
家庭	1 (3)	1 (5)
総合的な学習の時間	3 (4)	21 (58)
外国語活動	0 (1)	0 (1)
道徳	1 (1)	1 (1)
学活	2 (2)	36 (5)
学校行事	6 (5)	155 (121)
朝・帰りの会	1 (1)	1 (1)
給食	2 (1)	20 (1)
清掃	0 (2)	0 (6)
児童会、委員会	6 (5)	63 (59)
クラブ	6 (6)	79 (90)

	実施校数	人数
国語	0 (0)	0 (0)
数学	0 (1)	0 (0)
理科	0 (0)	0 (2)
社会	0 (0)	0 (0)
—	—	—
音楽	1 (1)	8 (3)
美術	0 (0)	0 (0)
保健・体育	2 (3)	46 (36)
技術・家庭	0 (0)	0 (0)
総合的な学習の時間	0 (1)	0 (23)
外国語	0 (0)	0 (0)
道徳	0 (1)	0 (1)
学活	1 (0)	14 (0)
学校行事	5 (5)	112 (99)
朝・帰りの会	0 (0)	0 (0)
給食	1 (0)	1 (0)
清掃	0 (0)	0 (0)
生徒会、委員会	4 (3)	34 (22)
部活動	4 (3)	25 (15)

(3) 情緒障がい特別支援学級の児童・生徒との交流及び共同学習の実施回数

(小学校：1校が回答対象)

校数

	小学校
10回以上	1

(4) 交流及び共同学習として、知的障がい特別支援学級の児童・生徒がそれぞれ何人参加したか。

実数で回答(例) Aさんが年に1回音楽に参加、Bさんが年に10回音楽に参加した場合は「2」

【小学校】1校、特別支援学級児童11人

	人数
国語	2
算数	2
理科	1
社会	1 1
体育	1 1
家庭	4
総合的な学習の時間	5
学校行事	1 1
児童会、委員会	6
クラブ	8

(5) 教科の交流及び実施上の課題(複数回答)

	小学校	中学校
授業の難易度が適切でない	3 (3)	5 (4)
児童・生徒間の自発的な交流が期待を下回っている	1 (3)	1 (0)
実施可能な教科が限られてくる	5 (5)	4 (4)
日程調整が困難	4 (3)	3 (3)
特になし	1 (1)	0 (0)

## 1.5 令和6年度の特別支援教育全般に関する成果と課題

### (1) 成果（主な意見）

#### 【小学校】

##### (校内委員会の成果)

校内委員会開催前に特別支援教育コーディネーターが対象の児童を観察しに行くという流れにしたことで、様々な視点からその児童のことを判断することができた。複数の教員で支援方法等を考えるため、担任の負担感が軽減できている。
校内委員会を中心として、組織的に支援策を考えて支援先につなげることができている。
校内委員会を中心として、生活面、学習面、情緒面に課題のある児童の支援策を話し合い、担任や児童の困り感を緩和することができた。
指導を要する児童の一覧を作成したり、月に1回の校内委員会を充実させたりすることによって、校内で支援を要する児童について共有し、必要な支援を検討できた。

##### (特別支援教室があることによる成果)

特別支援教室で学ぶ考え方について、全児童に対して周知を行ったことで、教室で困っている児童に対する他の児童の理解が深まった。
特別支援教室の効果等が保護者にも認識されてきたことで、選択肢の提案として受け入れてもらいやすくなってきたと感じる。
支援について早期発見・早期介入を掲げ、特に1年生を中心として児童の情報共有を密に行い、校内委員会を通じて発達検査の実施や特別支援教室の保護者への案内を積極的に担任が行うことで、より細やかな支援を行うことができた。

##### (その他の取組による成果)

自閉症・情緒障がい特別支援学級の開設に伴い、通常の学級の担任も固定学級の児童と関わる機会が増えたことで、教員の特別支援教育の理解が進んだと感じる。
特別支援学級発信で全学級との交流行事を計画・実施したことで、児童同士で顔見知りが増え、挨拶する機会が増えたり、特別支援学級の遊びに通常の学級の児童が気軽に参加するようになった。
校内委員会の記録をデータ化し、校内全体で共有できるシステムを整えたことで情報共有が円滑化された。
巡回相談員から支援方法や保護者へのアプローチの仕方等について助言をいただけたことで、アセスメントをスムーズに行うことができ、児童への支援や保護者との面談に活用できた。
ほとんどの教員が「どのクラスにも特別な配慮を必要とする児童がいる」という認識を持って、「こたいらこれだけは」という基本的な取り組みを行っていることは特別支援教育の意識が普及している成果であると感じる。

## 【中学校】

### (校内委員会の成果)

校内委員会の実施回数を増やすことで、困り感のある生徒に対して迅速に対応することができた。支援レベル3の生徒に対しても計画的に支援し、特別支援教室や特別支援学級につなぐことができた。

### (特別支援教室があることによる成果)

特別支援教室の拠点校であるため、特別支援教室の担任と連携しながら合理的配慮や生徒への支援を連携しながら行うことができた。

特別支援教室や特別支援学級が校内にあることにより、教員や生徒から特別支援教育に関する知見が広がり、特別な支援を要する生徒への理解や特性に合わせた指導や支援を行うことができた。

特別支援教室で学び自信をつけたことで、退出につながった生徒もいた。

特別支援教室の教員に定例部会に参加してもらうことで、より専門的な視点からの分析・指導を行える体制が整ってきた。

### (その他の取組による成果)

教職員の共通理解を図るために、校内でできる合理的配慮リストの土台を作成した。配慮の要望があった場合は、このリストを基に実施している。

(2) 課題（主な意見）

【小学校】

(人的支援の不足について)

不登校や引きこもりなど、心のケアをしなければならない子どもたちがたくさんいる中で、スクールカウンセラー等の専門家や医療機関等の関係機関が連携できる体制を整えることが必要である。
支援を必要とする児童が多いため、学習補助員等の活用が重要である。

(個別指導計画・学校生活支援シートについて)

学校生活支援シートの多くの項目で、各担任がそれぞれ文章を手入力するため、文言等を細かく確認する必要がある、作成に多くの労力を費やしている。
学校生活支援シートや個別指導計画の必要性について、教員ごとに差異があるため、教職員全体の意識をさらに高める必要がある。

(特別支援教室・特別支援学級について)

特別支援教室の入室者が多い場合は巡回指導教員による児童観察を行う時間の確保に苦慮することがある。
特別支援教室自体はとても効果があると感じるが、入室者数が多い学級の担任は学校生活支援シートや個別指導計画の作成等の事務負担が大きくなるので、担任への支援や事務負担の軽減が必要だと感じる。

(その他の課題)

教員や学校が児童一人ひとりの状況に合わせた対応を行う必要があり、できるだけ多くの事例の知識があるとよい。他校の取組など、より具体的な手だてや方法の情報共有をする必要があると感じる。
就学する際に必要な情報を幼稚園や保育園と連携して引き継ぎ、児童が必要な支援を受けられるようにする必要がある。
特別支援学級や特別支援教室への理解啓発を保護者に対して行う必要がある。

【中学校】

(人的支援の不足について)

支援を必要とする生徒が増えているため、支援を行う人員が必要である

(個別指導計画・学校生活支援シートについて)

学校生活支援シートや連携型個別指導計画の活用方法を教員や保護者に周知していくことが必要である。

(小・中の連携について)

合理的配慮や支援の方法について、小・中学校間の引き継ぎを丁寧に行うことが必要だと感じる。  
特別な支援を必要とするこどもの状況を、小・中連携の日等を活用して十分に共有する必要がある。

(その他の課題)

特別支援教育の理解について学校間や教員間の共通理解を図るため、よりよい支援や指導方法、対応の仕方等を校内研修等を実施して理解を深める必要がある。  
特別な支援が必要な生徒について、本人や保護者の困り感を支援につなげられるよう相談を進める必要がある。